

社会実験の各種調査結果概要(速報)について

昨年11月4日5日に実施した「大通りにぎわいまつり」の結果については、現在、来街者アンケートや交通量調査結果等の集計・分析を行っており、2月5日に開催する「大通りにぎわい交通まちづくり実行委員会」で協議・とりまとめを行うが、その概況は以下のとおりである。

- (1) 道路空間を活用した中心市街地のにぎわい創出
 - ・ 「大通りにぎわいまつり」に、沿線商店街を中心に20団体(36店舗)が出店した。
 - ・ 来場者数は、餃子まつりの二荒山神社会場を含め、4日(土)が約4万人、5日(日)が約5万人、延べ約9万人であった。
 - ・ 餃子祭りや宮の市、ミヤ・ジャズイン等のイベントと一体的に開催されたことにより、大通りだけではなく、馬場通りやオリオン通りなども含め、中心市街地全体に回遊性が生まれた。〔1.歩行者交通量調査 参照〕

- (2) トランジットモール化による自動車交通や商店街への影響
 - ・ 大通りの交通規制に伴い、周辺道路(概ね都心環状線内)に交通渋滞が発生した。〔2.渋滞長調査 参照〕
 - ・ 5日(日)が吉日と重なったため、二荒山神社の七五三参りの駐車場入庫待ちの影響により、県庁前通り(西進車)が、午前11時台に塙田4丁目交差点から今泉町交差点付近まで渋滞した(渋滞長約800m)。〔2.渋滞長調査 参照〕
 - ・ 商店街への影響については、意向調査結果を踏まえてとりまとめるが、大通り沿線の商店街の方から、概ね好評をいただいている。〔3.にぎわいまつりの評価 参照〕
 - ・ 荷捌きについては、臨時荷捌き場を設置したが、各店舗が規制時間前後に荷捌きを行なったことなどにより、問題は生じなかった。

- (3) 歩行者・自転車・公共交通を中心とした交通体系形成に関する課題
 - ・ バスは、トランジットモール区間に専用レーンを設けたことにより、概ねスムーズな走行ができたが、規制区間前後において一般車両の渋滞に巻き込まれたため、運行時間に遅れが生じた。(渋滞ピーク時において10分程度の遅延)
 - ・ パーク&バスライドやサイクル&バスライドの仕組みを取り入れたが、実施箇所においては、通常よりもバスやシャトルバスの利用者が増加した。
 - ・ 自転車での来場も多く、歩道上への駐輪が発生しており、歩行者との輻輳や駐輪場への誘導等について検討が必要である。